

多賀城駅前における「東北随一の文化交流拠点づくり」

H25.5.29（水）14：00～ 市長あいさつ

本日は、御多忙のところ、市議会への説明をする機会をいただき、心から感謝申し上げます。

本日説明させていただきます案件は、「多賀城駅周辺整備事業の進捗状況について」であります。

本市では、東日本大震災からの一日も早い復旧復興に取り組む中、多賀城駅周辺の市街地整備を震災復興のシンボルと位置付け、多賀城駅北側と南側との一体的整備を推進しております。

これまでの経緯としては、北側の都市再開発、そして多賀城の中心市街地の位置づけとして、多賀城の中心に何が必要かの話し合いを重ねてまいりました。

平成3年からの第三次総合計画では、その中の一つとして、商業拠点として、魅力ある商業空間の創造や新たな多賀城の文化情報発信基地ともなる都市拠点づくりに努めました。

また、平成13年からの第四次総合計画では、中心市街地整備として、連続立体交差事業と駅周辺土地区画整理事業を行い、整然とした街並みを創設し、商業施設と住宅との共存が図られ、史都にふさわしい景観を持つ良好な市街地の整備をしましたが、その後、平成14年9月にJR多賀城駅前に立地していた長崎屋が閉店しました。

平成23年からの第五次総合計画では、中心市街地の整備を行い、中心市街地を活性化し、人が憩え、集客できる施設や催しがあり、賑わいのあるまちづくりを目指しています。

また、課題として、既存商業地域との差別化を図りつつ、賑わいのある中心市街地を創出するための環境整備や取り組みが必要です。

この経過をたどり、多賀城駅前に進出予定だった事業者が平成23年3月11日の東日本大震災の影響により、進出を断念することになりました。

その後、多賀城・七ヶ浜商工会ではまちづくり委員会を設置し、協議を重ね、5月20日にその報告をいただきました。

その内容は100年先の将来に誇れるまちづくりをするため、コンパクトな住生活環境整備による、ワンストップサービスが充実したまちづくりとして、史跡と地域特有の地域資源を複合的に組み合わせた「史・楽都市多賀城」をコンセプトとしていました。

震災を乗り越える希望と明るい未来の源泉を当該市街地整備エリアに実現し、

当該駅前整備の集大成として「市民の誇りとして、市民が他所に自慢できるもの、そして、皆がわざわざ来たくなる場所」としていきたいと思ひます。

その点、本市には、悠久の歴史に培われた貴重な文化財があり、また内外から高い評価を得ている音楽ホール「多賀城市文化センター大ホール」が多賀城駅の間近にあります。駅北側は文化センターとつながる道として、市役所脇の石積みなどを利用した遊歩道を作りたいと思ひています。

我が国屈指の歴史遺産と質の高い音楽や芸術に触れることのできる多賀城のイメージを多賀城駅前にて更に増幅させるためにも、此処に地域文化創造の拠点を構築したいと思ひます。

したがって、地域文化の代表施設である図書館をまちの中核に据えるとともに、より高質で豊かな文化を提供し、民の力を得て「市民価値の高い文化のインフラ」を整備し、東北随一の文化拠点を実現していくものです。

また、子育て世代や高齢者などが、それぞれの年代や属性という垣根を越えて、文化というテーマのもとに、共通の興味や関心、趣味などを通じて緩やかに繋がりあう新たなコミュニティが此処に形成されるよう、子育て支援施設や高齢者のための福祉施設を立地させ、重層性のある都市空間とすることで、世代やジャンルを超えた人々の交流と協働を促していくものです。

そのため、民の力を得て、高質で便利な文化インフラの整備をしていきたいと考えております。

そして、私の政策提言であるコンパクトシティを駅前に具現化させること、東北随一の文化交流拠点を、何としてでも実現してまいります。